

RKK Group Magazine りゅうかい RYUKAI



2018 No.286
夏季号



夢とくらしと文化をはこぶ
琉球海運株式会社

琉球海運グループ

沖縄港運(株)
(株)沖縄輸送サービス

宮古港運(株)
(株)九州輸送サービス

八重山港運(株)
(株)きょうはい

沖縄荷役サービス(株)
国際輸送(株)

株 沖縄急送
琉海リース(株)

トシワエイ 琉球海運株式会社

親（親父オヤジ） の背中

琉球海運株式会社

専務取締役
平原 隆美



既に六十代半ば過ぎの年齢になつたが、自分の生き様・考え方・生活習慣において、親・特に親父の背中を追い続けてきたのだなと思うこの頃です。

私の親父は、大正十年生まれで、熊本の済々黌を卒業し、その後現在の神戸大学経済学部を卒業しました。剣道も有段者で、バンカラであつたが、当時ではめずらしく、ダンスやスケートもこなす人であつたと、おふくろから聞いています。字も達筆で、手紙やはがきは筆で書いていました。おふくろ

の言葉として、「おまえは、書道を習わせたが、残念ながらお父さんに似なかつたね」と。

つたので、どうしても昔の友達は熊本関係となっています。

親父の大牟田時代は、石炭産業が斜陽化していくところで、労働争議で有名な三池争議があり、その後三池炭鉱で炭塵爆発事故もあり、家族にとつても厳しい時代だつた思い出です。ただ、親父の教育方針でもあつたのか、その当時の田舎の大牟田では珍しかつたのですが、小学校五年で英語の塾にも通っていました。生活が苦しい時代で、給料遅配もあつた中で、親戚に下

宿をさせてまで、バックアップしてください
れたことには感謝しています。

親父は九歳のおふくろとの年齢差もあり、また経理も専門でもあつたのか、家のお金関係を含めてすべてやっていました。私も結果として、九歳以下の女房をもらい、同様に家の財務担当もやつてきました。進学についても、親は何も言いませんでしたが、親父が経理職でもあり、出来る親と比較されるのが嫌で、同じ道の文系でなく、理系を選んだ次第です。（本当は国語が嫌いで数学が好きだったこともあるのですが）

が縁の切れ目」と言う言葉がある様に、お金の問題で友達をなくすのは人生の最大の損だと。人つきあいの大事も親父から習いました。

会社を辞めた後は故郷の熊本に引っ越し、親戚つきあいの多い田舎ぐらしをしていました。今では、両親もいない熊本ですが、中学校や高等学校の友達がいることや、親戚つきあいのフオローを親から頼まれたこともあり、今でも年二回、正月前、お盆前の帰熊はかかしません。

親父は年を取つてからも、朝早くから自転車で熊本市内を走り回り、早起きと、野球の二部屋を行ったりきたり活動

小学校時代の思い出として、親父は会社の行事には必ず参加していました。当時はソフトボール大会などやっていました。会社の先輩・後輩とのつきあいも多かった印象です。酒も強

きし 野球の応援に行ったりして活動的でした。八十を過ぎても、プールで小学生と競泳までしていました。この健康の源が、散歩であり、家のそばの江津湖のまわりを毎日、二時間以上散

く、家の門の外まではきちんとした会話をして帰つてくるが、一旦玄関に入るとすぐ寝て、重い親父をおふくろ、妹と引っ張つて布団まで運んだこともありました。また、いつも口癖で、「酒を飲んだ明くる日は時間前に這つてでも職場に行け」と言つていました。酒は飲んでも飲まれるなど。酒を飲むペースも早く、現状の私の酒の飲み方も親父の影響でしょか。

また、親父からは、友達つきあいでは、お金は貸すなと言つていました。貸してもそのお金が戻つてくることを期待してはいけないと。「金の切れ目

歩をして、その後は図書館で勉強をしていました。夜は晩酌をするのが日課であり、夕食はどうしても刺身みたいな酒の肴がメインで、炭水化物は取らないことがほとんどでした。従つて、どうしても食事の主力は、朝食や昼食となり、肉類は朝からとる平原家の食事習慣となっています。この様な運動・食事習慣が現在の私につながっています。

おふくろは、結婚してからはいつも親父を中心とした家族が大事で、いつもも楽しそうに食事の準備をしていました。お酒はそれほど強くはなかつたの



本部港に寄港した、にらいかないⅡ

五月二十二日(火)より、にらいかないⅡによる那覇－京阪神航路での本部港を経由する貨物輸送が始まりました。六月五日には本部港にて就航記念セレモニーがあり、宮城社長と本部町長の高良町長による挨拶、山之内船長への花束贈呈が行われました。宮城社長は挨拶で「輸送コストの削減で県産品の競争力強化、

RKK Group News

本部港就航 「にらいかないⅡ」



皆さんで記念撮影

業振興に応えたい」と述べられました。本部港が新たな海上物流拠点となることで、これまで本島全域から那覇に一極集中していた貨物の陸送コストが大幅に削減され、物流網の効率化に繋がると期待されています。にらいかないⅡは週一回、那覇港から本部港を経由して大阪・東京へ向かいます。

RKK Group News

(株)沖縄輸送サービス 創立四十周年記念行事



ゴルフコンペにて。気合いは十分です！



祝賀会にて。

去る五月九日、都内のホテルにて創立四十周年記念祝賀会を開催いたしました。当社の満四十周年は去年の六月ですが、このイベントは創立四十周年記念事業の最後を締め括る行事として去年より準備を進めておりました。

当日は、朝方より創立四十周年記念ゴルフコンペを開催し、場所を移して夕方より祝賀会の運びとなりました。祝賀会は、琉球海運グループ経営会議のメンバーの皆様と当社役員及び各店所長、課長以上の管理職が

出席し、各グループ会社関係者の皆様と短い間でしたがご歓談頂きました。途中、ゴルフコンペの結果発表及び記念品の贈呈が行われ、その後マジシャンを招待しての余興もあり、終始和やかな雰囲気で進行いたしました。ご多忙な中、関連会社の皆様にはご出席頂きまして心より御礼申し上げます。

今後とも、琉球グループの一員として役員一同更に邁進していく所存ですので宜しくお願いいたします。

RKK Group News

建造工事をウォッチ!!

平成30年12月稼働予定のRKK中城総合物流センター及び平成31年1月稼働予定のRKK糸満総合物流センターの建築進捗状況をお伝えします。

中城・糸満両センターともに6月現在、基礎の土台は完成し建物の鉄骨を組み立てている最中です。

上空写真で全体像を見ると着々と完成に向けて工事が進んでいるのが分かります。

引き続き進捗状況を皆さんに報告していきますので、ご注目ください!



6月末の中城総合物流センターの様子



6月末の糸満総合物流センターの様子

拓南製鐵(株)見学会

5月2日(水)に、琉球海運の営業部・企画部・グループ戦略室から総勢10名で第25回拓南商事株式会社、拓南製鐵株式会社新中城工場へ合同工場見学に行ってきました。

最初に拓南商事、拓南製鐵の概要を説明していただいた後、工場敷地内をバスにて移動し工場を見学しました。リサイクルのため解体機が廃車を解体する現場や細長く圧延されたビレット（金属片）が押し出される瞬間などを見ることができました。

今回、この工場見学で普段目にすることが出来ない光景を目にすることができ、鉄鋼というものに対する理解を深めることができたと思います。

このお忙しい中ご丁寧に説明してくださった拓南商事、拓南製鐵の方々に改めてお礼申し上げます。



解体作業の説明を受けている様子

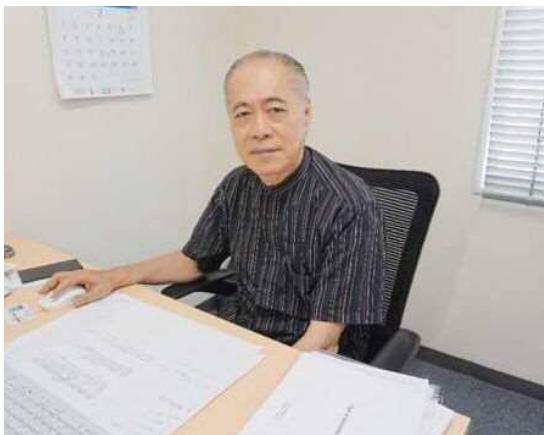


解体中



圧延された鉄筋

スター沖縄株式会社発足



2018年4月に琉球海運(株)グループ初の小売・外食部門としてスター沖縄(株)が設立されました。今回スター沖縄(株)の西里弘一代表取締役社長に記事を書いて頂きましたので是非ご一読ください。

スター沖縄株式会社 代表取締役社長 西里 弘一

2018年4月、スター沖縄株式会社は琉球海運(株)グループの一員として発足しました。

琉球海運(株)に今までなかった小売・外食部門として精進発展させていきます。

さて当社が最初に手掛ける「星乃珈琲那覇オーパ店」の開業が迫ってまいりました。もうご存知かとは思いますが、再開発の那覇バスターミナルの2階オーパの中に47坪68席の店舗として10月13日(土)に開店いたします。どうかご期待ください。

7月に採用した店長候補および2人の正社員は東京のお店で研修を行っております。金城慎一横浜鶴屋町店、都丸美由紀一銀座数寄屋橋店、赤嶺祐介一神奈川中央林間店に配属になっております。すでにスター沖縄(株)の事務職員として入社している新川小百合とライングループをスタートさせ、ライン上で活発に交流を行っております。

全員が燃えておりるので琉球海運の皆さんの一層のご声援をお願いいたします。

これから8月に入りアルバイト30名の募集をいたします。私たちは30名の獲得はできると自信は持っているのですが、なにぶん相手があること、油断はできません。

皆さんにも是非採用の後押しをお願いいたします。

内装の完成が10月のはじめ。研修から戻る3名とアルバイト30名が一緒になって現場で開店前の訓練をいたします。おそらく短い訓練期間なので上を下へと混乱も生じるかもしれません。しかしそれを乗り越えてはじめて成功の果実は手に入ると思っております。

夢は広がっております。私たちはこの「星乃珈琲」1店で終わるつもりはありません。次の店舗、開店、開店と戦いは続きます。この2、3年の間に、珈琲以外のオリジナルブランドを開発するつもりであります。このオリジナルブランドを島内のみならず東京・大阪・名古屋・福岡に展開する意思を持っております。この延長上に海外が見えてきます。



一心不乱にスター沖縄社員が力を合わせ異体同心となったとき、この夢は実現すると考えております。

大言壯語に聞こえることもあるかと思いますが、実行レベルでは数字をもとに慎重に行動することをモットーにしております。

戦略室の狩俣課長、総務の石新部長、当社の宮城会長のご理解とご支援に感謝しております。

今までも、これからもよろしくお願いします。

那覇ハーリー

五月五日「第四十四回那覇ハーリー」に出場しました。今回琉球海運グループからは琉球海運株と沖縄港運株の合同チームと(株)沖縄急送が出場しました。さらに同じグループ会社同士での競い合いでグルーハーが出場しました。

気になる結果は：琉球海運株、沖縄港運の合同チームが一位、急送チームが二位となりました。合同チームは去年、一昨年とタイムも順位も芳しくなかつたため大きな躍進となりました。急送チームとも良い勝負だったでの来年のハーリーが楽しみです。

レース終了後は恒例のバーベキュー！お肉とお酒で疲れた体に栄養補給です。やはり思いっきり体を動かした後のお肉とお酒はおいしいものです。

来年も二チームとも良い結果が残せるように頑張つてしまいましょう！！

五月五日「第四十四回那覇ハーリー」に出場しました。今回琉球海運グループからは琉球海運株と沖縄港運株の合同チームと(株)沖縄急送が出場しました。さらに同じグループ会社同士での競い合いでグルーハーが出場しました。



このQRコードを読み取るとハーリー漕ぎ手の視点映像が見れます！

※この映像は限定公開のため検索機能では表示されません。

